



小金小だより 2月号

校訓 なかよく・ただしく・たくましく

令和6年1月31日
松戸市立小金小学校
校長 西郡 泰樹

「できたことにも目を向けることを大切に」

3学期は短いのですが、日数だけでなく、なんとなく毎日、気忙しく過ぎ行き、あっという間に1月が行ってしまいました。

まとめの3学期を過ごしている中で、どうしても年度初めに目標として掲げたことで、まだできていないことに目が向き、最後まで諦めずに頑張りましょうと言ってしまいます。

しかし、この1年間でできるようになったことや成長したことに、もっともっと目を向けなければいけないと思いました。いろいろなものが欲しいと思う中で、実はもう沢山のものを手に入れていることに気付かないことと同じです。

コロナ禍においては、それ以前の日常がいかにありがたく、早くかつてのように戻りたいという思いが強かったのですが、過ぎ去ってしまうと、またどんどんいろいろなものが目に入ってきます。やるべきことがたくさんあってやりきれない学校の実態があります。たとえば、能登での震災を受けて、この先、防災教育がクローズアップされると思います。また、国民の二人に一人はがんになってしまうという実態からがん教育もやるべきだという声があります。経済的な面ではもっと金融教育にも取り組むべきだというものもあるでしょう。もっとタブレットを使って学習をしなければいけないともいわれるし、これからは英語が話せることは必須なことだと言われて久しいです。しかしながら、探求的な学習により「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学びと協働的な学び」によって子どもたちの資質・能力も高めなければならないという重要な課題もあります。

一方で、これからの時代、いや今現在において、学校というものがもう機能しなくなっているのではないかという声も聞かれます。本校の歴史と同じく150年続いてきた学校での教育はもう今の時代にはそぐわなくなっているという考え方のようです。「先進国と比べると・・・。」という報道がよく聞かれます。日本の社会や経済は遅れている。学校教育も今の時代に合わせるとともに、これからの時代を想定したものを進めていく必要があるといわれます。しかし本当にそうなのでしょうか？様々な問題はありますが、『不易と流行』が必要だとよくいわれます。日本の学校教育のよいところにも、もっと目を向けたいものです。ナンバーワンじゃなくてもオンリーワンの日本の学校教育のよさもたくさんあるのだと思います。そうしたものにも目を向けながら、新しい学校のあり方をめざしていきたいものです。

1月1日の能登の震災に見舞われた皆様には改めてお見舞い申し上げます。心配な事が続きました1月でしたが、これからの春めいていく2月の日々に期待をこめたいと思います。残り二月におきましても、引き続き、本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

教育はみんなで 校長 西郡 泰樹



スマイル遊び



異学年交流「スマイル遊び」をしました。
相手を思いやるやさしさが随所に見られ、心温まる時間になりました。



野球しようぜ！



大谷選手からのグローブが届きました。
全校朝会で代表児童とキャッチボールします。

